もう一度、会いたい

障害児用チャイルドシートを開発した

山﨑一雄さん
山﨑雅幸さん

障害者のためのものづくりを行っているシーズ。この会社の看板製品の一つが、世界最高水準の障害児用チャイルドシート「キャロット3」だ。ヨーロッパとアメリカの両方の安全基準をクリアしている障害児用のチャイルドシートを製造している会社は世界でも数社しかなく、キャロット3は世界四十一カ国で愛用されている。

諫早市内にある工房を五年ぶりに訪ねると、キャロット3の改良が進んでいた。ヨーロッパの安全基準の改定に伴い、側面からの衝撃にも耐えられるようにヘッドレスを深くするなど、改良を重ねたほか、乗せ降ろしがしやすいように設計を見直し、より安全性と使い勝手を追求したという。

シーズでは二〇二四年秋に、これまで代表を務めていた山崎一雄さんが会長となり、新たに山崎雅幸さんが代表に就任した。二人は会社設立当初からの同志で、これまで一雄さんは製品開発を担当し、雅幸さんは車椅子をはじめとする生活に必要な道具をオーダーメイドで作る、という仕事をしてきた。

障害児やその親と接する機会の多い雅幸さんは、彼らの要望を一雄さんと共有し、アイデアを出し合いながら、製品化に活かすべきか、個別対応すべきか、など様々に検討を重ねながら、日々ものづくりに励んでいる。キャロット3の改良も、そうして進めてきたという。

一雄さんは「雅幸さんには障害児を持つ親御さんが相談しやすい雰囲気がある」と話す。確かに雅幸さんの柔らかで優しさに満ちた話しぶりには安心感がある。製品づくりに必要な生の意見は、こうした雅幸さんの人柄が引き出しているのだろう。

現在、シーズのスタッフは二十二名。五年前より若者が増えた印象だ。今後は、後継者を育てたいと話す雅幸さんに、この仕事に必要な資質を尋ねた。

「私たちが作っているのは、障害児の生活に必要な道具です。道具があることで劇的に生活が改善できることがあるからこそ、仕事にはやりがいを感じます。しかし道具を使っても上手くいかない場合も多く、例えば『この椅子を使ってよかった』と実感してもらえるのに五年かかる、なんてこともあります。障害児の特性は一人一人異なり、正解が分からないからこそ、時間がかかる。それでもめげずに向き合い続ける、その気持ちが何より大切です」。

キャロット3の改良品「キャロット3 i-Size」は、二〇二五年中の発売を目指している。世界中の障害児たちが安心して外出できるように…。人の心に寄り添うものづくりの精神は、健在であった。

キャロット3の改良品「キャロット3 i-Size」。
実際に障害児にモデルになってもらい、
何度も試作を繰り返した末に完成した。

過去の山崎さん紹介号!
ni-ko-ri
No.47

シーズでは、波佐見焼のメーカーとコラボして食器のデザインも手掛けている。
安定感や持ちやすさはもちろん、プラスチックではなく、
陶器で食事を楽しんでほしいという思いも込められている。